

A-Iを活用した看護記録支援システムとは

A-Iとは

A-I (Artificial Intelligence) は日本語で「人工知能」を意味する言葉です。A-Iはその優れた学習機能を活かし、スマートフォンや音声認識機能やエアコンの自動温度調節機能など、身近なところで私たちの日常生活を助けてくれています。

近年、こうしたA-Iの技術を医療の分野にも取り入れ、医療従事者の負担軽減や医療の安全性を高める取り組みが進んでいます。

当院もA-Iを導入

2021年2月より、日本電気株式会社 (NEC) との共同開発によるA-Iを活用した看護記録支援システムを導入・運用開始しました。

看護師の業務は、患者さんのケアや処置、看護記録作成など様々です。これらの業務にA-Iの技術を導入することで、業務時間を短縮し、ケアの時間をより多く確保することができま

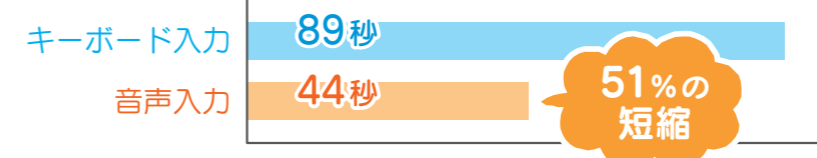
導入したシステムについて

看護師が患者さんに行ったケアや治療経過について、電子カルテに記録したものを看護記録といいます。今回導入したシステムは、専用のスマートフォンを使って看護記録を音声で作成することが出来るシステムです。スマートフォンに音声を認識させると、A-Iがその内容を解析して自動的に文字に起こしてくれるため、どこでも簡単に記録を残すことができます。

一般的な音声認識システムの課題として、意図しない言葉へ変換されてしまうことが挙げられますが、このシステムは医療の専門用語にも対応しているため、非常に高い精度で変換することができます。

… 入力時間の短縮につながります …

(NEC 記録時間短縮の効果測定結果より)



100文字あたりの入力時間を比較すると、キーボード入力より音声入力の方が短い時間で完了することが分かります。

看護記録支援システムの仕組み



1 スマートフォンのアプリを立ち上げ、記録したい内容をスマートフォンに向けて話しかけます。



2 アプリが音声を認識し、AIが適切な文字に変換して記録します。



3 ナースステーションに戻ったら、記録内容をパソコンに転送します。



4 転送された記録をチェックし必要な修正を行った後、カルテに保存します。

Check !

看護記録支援システム導入により期待できる効果

- 効率的に記録できるため、記録の作業時間を短縮できます。
→患者さんのケアに十分な時間を充てることができ、質の高い看護につながります。
- ベッドサイドや移動中でも記録が可能になります。
→診察やケアの直後に記録が可能になるため、記録の精度が向上します。
- パソコンなどの機器に触れる機会が減少します。
→接触による感染リスクが軽減されます。

●システムの使用に当たって

- * 声漏れによる情報漏えいを防ぐため、音声入力は周囲の状況を確認し患者さんのプライバシーに配慮した環境で行います。
- * スマートフォンは、セキュリティが確保された専用端末とネットワークを使用します。記録された内容が外部に漏れることが無いよう、プライバシーを考慮して実施しています。